



## 新春に当たって

小浜西組町並み協議会会長 澤口 輝禪

小浜西組の皆様をはじめ、関係者の皆様におかれましては、よき新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。今冬は年末からの寒波と大雪で、西組の皆様も大変だったと思います。ここ数年の暖冬で油断をしていましたが、あらためて雪国の厳しさを知らされました。

さて、22年度は、国の補助事業により、5棟の家の修理が行なわれており、飛鳥区、香取区をはじめ、景観が少しずつ整ってきました。修理にたずさわる施主さんや、施工の業者さんには厚く感謝申し上げます。さらに、市の補助金を受けての小修理も数軒おこなわれております。

また昨年の春と秋に開催されたウエスト物語には、約4千人あまりという、沢山の方々が訪れてくださいました。地元の方々も、会場の受付や行事の準備にかかわり、また秋のイベントのひとつであった門前縁日横丁には、近所の子供さんが大勢あつまり、ゲームや屋台を楽しんでいたのが印象的でした。

また、防災ワークショップが2度開催され、バケツリレーを初めて経験した方も多かったようです。

今、協議会では、マスタープランに掲げた一門一灯運動や空き家対策などに少しずつではありますが、取り組んでおります。今年は、行灯の設置や空き家の調査

などで、住民の皆様  
にお願いに回ることも  
多いかと思いま  
す。今後も、西組  
一丸となって、「住  
んで良し、訪れて良  
し」の町作りに努力  
したいものです。



「FBC新春特別番組知事対談『ふくいブランドを全国へ』」に出演の澤口会長  
(1月2日放映)

# あすけ 足助まちづくり推進協議会 視察研修に来られる



資料館にて意見交換会

去る1月16日の日曜日、愛知県豊田市  
<sup>あすけ</sup>足助地区の方々が小浜西組を視察研修に  
訪れました。

折悪しくこの冬一番の大荒れの天候となり、積雪が30cmを超えた悪コンディションでしたが、総勢20名の大所帯の一行は、前日に熊川宿を訪問され、小浜市内で宿泊の後、朝の9時に町並み保存資料館にいらっしやいました。お迎えしたのは石野副会長、山田理事、そして事務局の桂田の3名です。

足助地区は、愛知県三河地方と信州飯田の交通の要衝ようしやうにあり、熊川宿と同じように街道筋の町並みを持ち、23年度の重伝建地区選定を目指してあと一步の段階にあり、既に伝建物の同意は90%を超えて終了しているそうです。

今回の視察では、選定から既に16年目を迎える熊川宿と、選定間もない小浜西組の双方を訪ね、それぞれの段階の進捗や、まちづくりの状況、修理事業の進め方など、対比しながら勉強したいという意向でした。

訪問団は、豊田市の行政の方が6名、協議会のメンバーが13名、名古屋大学1名の20名でした。協議会の中には、大工、工務店関係が5名あり、女性3名、男性17名の参加でした。

全般に若い方が多く、またずいぶん熱心にご質問され、予定時間の11時までの2時間が



雪の中、西組を視察される足助のみなさん

あっという間に過ぎました。中でも西組のマスタートプラン「ベンガラ格子が灯る町」に興味を持たれ、はりぼてのような町にしたいという部分では意見の一致をみておりました。足助は既に観光地化しており、重伝建は後からついてきたということで、みやげ物屋や、食事処、駐車場、トイレなどはもちろん、電柱の地下埋設なども整備が進められており、大変恵まれた環境にあります。その中で重伝建をどう位置づけていくか、どう活用していくかというのが地域の課題だそうで、私たちからするとうらやましい限りですが、そういう意味ではほとんどが未整備の小浜西組とは少しちがった環境と言えます。

一言で重伝建地区といってもずいぶんいろいろあるもんだなあと、こちらも勉強させていただきました。

2時間の意見交換の後、地吹雪の中、町並みを散策され、雪の西組を堪能されました。「次は雪のないときに来てくださいね。」と言うと「足助にもぜひお越し下さい。」と言っていただき、お別れしました。重伝建地区選定後はぜひ訪れてみたい町のひとつとなりました。



## 空き家対策について

小浜西組町並み協議会では、このたび、市役所と協同で空き家調査を行います。

皆さんご存知でしたか？小浜地区は小浜市内の中でもここ数年で子どもの数が激減することが教育委員会の調査で予測されているんです。小浜地区だけで見ると7年後に1/3になるんだそうです。現在、小浜小学校が移転し、南川町や後瀬町などの子どもたちが小浜小学校へ通ってくださっているのですが、小浜地区単独で見るとほとんどの学年が1クラスにせざるを得ないのが実情です。

なかでも西組は、地域の皆さんが一番感じておられると思いますが、空き家が多く、過疎化に拍車がかかっています。子どもがいない地域が一番過疎が早いのは火を見るよりも明らかで、今のうちになんとかしないと取り返しのつかないことになります。



また、皆さんは「限界集落」という言葉をご存知でしょうか？

ある本によれば「過疎化などで人口の50%以上が65歳以上の高齢者になり、冠婚葬祭など社会的共同生活の維持が困難になった集落のことを指す。」ということです。ここまでではないにせよ、このまま少子高齢化、人口の郊外への流出が進めば、西組は次第に限界集落化していくのはほぼ間違いありません。

この状況を少しでも改善したいという<sup>しんし</sup>真摯な思いから、西組のまちづくりを考える小浜西組町並み協議会では、空き家をなくして人に住んでもらう町を目指して、いろんな方策を考えています。

もちろん、春と秋に行った「ウェスト物語」などのイベントも本当に大切です。しかし、人に来ていただくまちづくりも大事だけど、一番大切なのは**住んでいる人が幸せな町**なのではないでしょうか。

マスタープランでは、重伝建地区にありがちな「朝にみやげ物屋に『出勤する』まち」や、「町並みだけは素晴らしいけど、中には誰も住んでいないはりぼてのような町にだけはしたくありません。」と<sup>うた</sup>謳っています。そのためには、何より人が住んでいる町、夜になると明かりが<sup>とも</sup>灯る町にしなければならない。これが「**ベンガラ格子が灯る町**」西組のマスタープランのキモなのです。

このたび行う空き家対策では、まず、空き家の所有者の意識調査を市役所と協同で行います。そして、「**貸してもいい」「売ってもいい**」という**意思表示をいただいた空き家に対して、調査し、データベースを整備**します。このデータベースを公開して、窓口を広げ、西組に住みたい人、西組で商売をしたい人などに情報を提供していきながら、西組の再生を計っていきます。もちろん、水廻りのリフォームや駐車場の問題など、個別の建物にはいろいろ乗り越えなければならない壁がたくさんありますが、例えば住まい方の提案をすとか、各種補助金の案内をすとかしながら、とにかく西組の空き家に人が入ってもらえるよう、行政当局と協同して、様々な方策を打っていきたいと思います。

これからもいろいろとお騒がせすると思いますが、地区内の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

